

会報

「チーム学校」に向けて



会長 瀧澤 隆司

学年度末を迎え、大学入試、卒業式、入学選抜、教職員の定期異動等、校務繁忙がピークを迎える時期であります。緊張の連続で、ミスは許されません。その、一手を取り仕切る、教頭・副校長先生方の重責は、いかばかりかと推察する次第です。心身共にご健勝であることを願わずにはいられません。

さて、8月上旬の北海道札幌市における第54回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会が、会員皆様のご協力で盛会に終えることができました。

また、9地区の研究協議会等の開催において、運営にあたられた、各地区の理事及び関わった多くの教頭・副校長先生方、そして、発表された教頭・副校長先生方に感謝申し上げます。

これまで、申してきましたが、今後の教育について、次期学習指導要領のこと、第二期教育振興基本計画事業の実行、新たな構成員による教育再生実行会議の発足等、国の教育行政の動向には目が離せません。

グローバル人材の育成、体罰・いじめ問題、初等中等教育におけるキャリア教育の推進、道徳や規範意識の涵養、特別支援教育の推進等、これらを掌る、教員の資質能力の向上、さらに、学びの姿が大きく変わる、課題解決型(アクティブ・ラーニング)の導入とこれら課題に対応するために、教職員意識や組織構造の転換を図ることを目的とした「チーム学校」の実現が求められています。

この「チーム学校」の推進において、「チーム」と冠することばを勝手ながら、スポーツ競技と結びつけさせていただくことをお許し願えれば、今年は、リオデジャネイロでオリンピッ

平成 27 年度

NO.93

全国高等学校教頭・副校長会

ク・パラリンピックが開催されます。2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが続きます。各種スポーツが一層盛んになり、熱を帯びてくることだと思います。

昨年は、日本ラグビー界において、ラグビーワールドカップ2015イングランド大会で世界屈指の強豪で優勝経験のある南アフリカ戦の勝利を含め3勝したことにより、脚光を浴びました。この南ア戦では、拮抗した試合展開、終了間際、同点とするか逆転を狙っていくかの戦術選択において、キックより、スクラムで押し合いトライを決めました。五郎丸(ごろうまる)選手の活躍は大きな話題でした。ラグビーの精神を象徴する有名な言葉に「One for all, all for one.(一人はみんなのために、みんなは一人のために)」が、「チーム」の在り方を考える際の手掛かりになるものと耳に残りました。

ヘッド・コーチ エディ・ジョーンズ氏は、選手の素質を充分に引き出せば、今後も互角に戦えると答えていました。選手の特性を發揮させて、じわじわと有利に導く戦い方を今回、日本チームは見せてくれたものと思います。

プロテニスでは、錦織(にしこり)選手は、世界ランキング4位に、昨年末に、フィギュアスケート男子、羽生(はにゅう)選手は優勝し、世界で初めて300点を越えました。この点数は、陸上競技男子100メートル走において、ついに8秒台が出たことに相当するそうです。

国際舞台で鍛えられ、国を越えたコーチ、監督などスタッフに囲まれています。

教育再生実行会議の提言でキーワードである「グローバル化」では、ビジネス・工業技術等の分野では、厳しい環境の中、生き残っています。多くの示唆に富んだヒントが得られます。

大学教育、大学入学者選抜の一体的改革、選挙権年齢引き下げによる主権者教育も急務です。

教頭・副校長先生方の高い見識によって、これらの改革に即応した、「チーム学校」を推進し、教育の信託・期待に応えたいものです。



新年のご挨拶

全国副会長
北海道会長
家近 昭彦

平成 28 年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

また、全国高等学校教頭・副校長会会員の皆様並びに関係各位には、日頃より御支援と御協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

昨年は、去る 8 月 5 日から 7 日の 3 日間にわたり、「北の大地」北海道にて第 54 回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会を開催いたしました。本大会では、「志しを持って主体的に学び社会に貢献する力を育む高校教育の推進」を統一主題、「グローバル社会を生き抜く人材育成を目指して」を副題とし、はるばる全国各地から 716 名の皆様の御参加をいただきました。重厚な基調講演を始め、各分科会における研究協議においては、優れた研究発表や活発な協議、意見・情報交換等が行われ、今後の学校運営や教育活動の推進に資する有意義な大会となりました。本大会の無事終了の御報告とともに、開催にあたって御支援、御協力いただいた関係各位に改めて深く感謝申し上げます。

さて、昨今の急速に変化する社会情勢の中、北海道においても子どもを取り巻く環境は必ずしも良好とは言い難く、長期的・短期的な視点を定め、創意工夫しながら解決に迫るべき教育課題も多々あります。しかしながら、子どもたちが心身ともに健やかに成長し、先見性や創造性を持ちながら地域社会で活躍するためにも、また、国際人として広く国内外で活躍するためにも、私たちは学校・家庭・地域・教育行政・関係組織が一体となった重厚且つ緻密な教育活動を日々推進していかなければなりません。

結びになりますが、今年は首都東京において、全国大会が開催されます。さまざまな教育課題や教育改革に対応すべく、引き続きこの大会が全国の高等学校教育の充実と発展に資する機会となるよう、また、本会の取組が全国の会員の皆様の御活躍に資するものになることを祈念し、新年にあたっての御挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(北海道札幌北高等学校 副校長)



新年のご挨拶

全国副会長
福田 洋三
全国総務部長

新年明けましておめでとうございます。

平成 28 年の年頭にあたり全国高等学校教頭・副校長会の皆様に御挨拶を申し上げます。昨年は、海外では年明けのフランス新聞社襲撃テロ、イスラム国による日本人拘束、ネパール大地震等、国内では、安全保障関連法案や選挙権年齢 18 歳以上の改正公職選挙法の成立、マイナンバー制度の開始、TPP 合意、2020 東京オリンピックの新国立競技場計画・エンブレムの撤回、大村・梶田氏ノーベル賞受賞、北陸新幹線開業等、教育にも影響する出来事がありました。

私は、全国教頭・副校長会の仕事は、2 年目でしたが至らないところも多い中、他の道府県の理事の方から、様々な情報や実践・実情を得ることができ、貴重な機会と思っています。北海道での全国大会、千葉県での関東大会に参加し、文部科学省教育行政の最新の講話、社会保険労務士事務所長田北百樹子氏、東京工業大学特任教授金谷年展氏、千葉商科大学教授で東京都教育委員会委員に就任した宮崎緑氏の講演を聞くことができました。いずれも高い視点からの示唆に富む貴重な内容で、主管道県の方々の御尽力によるすばらしい企画でした。大会での研究発表は、校務多忙な中での優れた実践や調査分析で、日々の業務に役立ち、新しい視点を貰える貴重な情報交換や交流となり、改めて人と人のつながりの大切さを感じ入りました。

さて、東京都は、今年いよいよ 10 年ぶりの全国大会の主管県として、着実に準備を進めています。北海道大会の素晴らしい運営に学び、経費が高い都心での工夫を凝らし、全国の皆様の御参加を御待ちしています。東京都教育委員会は新国際高校・小中高一貫教育校の設置等を含む都立高校改革推進計画第二次実施計画、SNS 東京ルール等の新たな施策を実施します。

今後とも本会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念して挨拶といたします。

(東京都立石神井高等学校 副校長)



新年のご挨拶

全国副会長
石川県会長 表 治男

新年明けましておめでとうございます。

今年度は 3 回の理事会と全国大会に初めて参加させていただき、他の都道府県の理事の方々や全国の会員の方々から様々な情報や実践報告を聞くことができた貴重な機会を得ました。特に講演では、教育再生実行会議のこれまでの議論と今後の動向について、どこよりも早く、直接文部科学省担当者から伺えたのは、有意義でした。「アクティブ・ラーニング」を中心とした、教育の質の転換は、改定される次期学習指導要領の目玉のひとつとなります。

石川県は、今年度、「高等学校『学びの力』向上アクションプラン」を制定、学校独自のスクールポリシーを作成、その中で目指すべき生徒像にあわせた「学力スタンダード」を 3 年計画で作成中であります。根幹となるのは、「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒」であり、目的は従来型授業から探究型授業、受動的学びから、能動的学びへの転換です。

本年、石川県は 3 月に北陸新幹線が開通し、全国、特に関東圏から多くの観光客が訪れ、空前の観光フィーバーを迎えております。各種学会や国際会議、見本市、スポーツの全国大会をまとめて、MICE（マイス）と呼びますが、その MICE のひとつ、産業教育フェア全国大会が本県で来年開催されます。全国から多くの先生方をお迎えする大きなイベントだけに、本県の実業校生徒達の「おもてなし」力が大いに発揮されなければなりません。石川県の教育現場でも、実業高校の教頭を中心に、準備を余念なく行っています。また、10 年後本県で行われる全国教頭・副校長会全国大会に向けての準備を始めたところもあります。

本年が皆様方にとって、幸多き年となり、本会がますます発展していきますことを祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

(石川県立金沢泉丘高等学校 副校長)



新年のご挨拶

全国副会長
徳島県会長 平井 昭夫

新年あけましておめでとうございます。

県教育委員会主催の副校長・教頭会において、教育長から、「副校長・教頭は学校の要。そしてそのやりがいは学校を変えること」「学校運営の基礎として、コスト意識を持て」…等々の訓辞をいただきました。それを胸に刻みつつ、本年度、本県の教頭・副校長会の活動がスタートしました。各ブロック会では「道交法改正による罰則強化」「育成・評価システムの実施と課題」「アクティブラーニングの取り組み」等、今日的な課題について熱心な討議・情報交換を行い、共通理解を深めました。各学校各学科において抱える課題が一様でない実態を踏まえ、「共通性の確保」を図りつつ、「多様化への対応」も併せて進めることの必要性を確認しました。こうした有意義なブロック会も財政的な制限があり、一層の効率的な開催と運営が喫緊の課題となっています。

本年度私は、第 54 回全国大会（北海道大会）、第 30 回四国大会（高知大会）及び 3 回開催された全国理事研究協議会に参加させていただきました。そこでは、各地域における先生方の研究・実践の素晴らしい、大会を盛り上げ成功に導こうとする真摯な努力と協力体制の大切さを学ばせていただきました。私は、参加する者の使命として、多くの最新の情報を入手し、本県の先生方に還元することを肝に銘じています。個人的には、かつて共に仕事をした先生方と再会し旧交を温めるとともに、今後の活躍を誓うなど、楽しいことも忘れることができません。

徳島県は、平成 32 年度全国大会を開催することになりました。肃々と準備を進め、田舎県での開催ですが、徳島の心意気や良さを発揮し最大の成果や意義が見いだせる大会であります。

(徳島県立城北高等学校 教頭)



第 55 回東京大会へのご案内 「オリンピック・パラリンピック開催の地 東京へ」

全国理事代理 加瀬 きよ子
東京大会準備委員長

平成 27 年度第 54 回北海道大会が札幌市で開催され、広い大地からお集まりの副校長教頭先生方が総力を結集しチーム北海道として緻密な計画のもと強い組織力で取り組む凄さを拝見し、気が引き締まる思いで大会の期間を過ごさせていただきました。北海道の家近会長をはじめ関係の先生方本当にありがとうございました。また、心温まるお言葉や詳細な資料をいただきこれから準備をするうえでも大変心強く感謝申し上げます。

さて、平成 28 年が明け、いよいよ東京チームのデビューとなります。

東京都の『社会全体で子供の「知」「徳」「体」を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に主体的に貢献する力を培う』という基本理念のもと第 55 回東京大会の統一主題は「たくましく生きる力を育てる高校教育の推進～未来を展望し、社会とつながり、挑戦するひとづくり～」とさせていただきました。2020 年に開催予定のオリンピック・パラリンピックを前にして東京は活気にあふれ、世界の注目を集めています。だからこそ教育への期待が大きくなっています。日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業にも力を入れています。ここで東京ブランドを再確認し自信をもって発信していきます。

平成 28 年 8 月 3 日～5 日を開催期間とし、日本の政治の中心地である永田町周辺の 3 会場を予定しております。

ますます躍動的な東京に是非お越しいただき充実した研修をしていただくとともに進化していく東京を満喫していただければと思います。

東京都の副校長一同心からお待ち申し上げます。
(東京都立江東商業高等学校 副校長)



平成 27 年度研究部報告

全国研究部長
全国常任理事 長江 誠
東京都部会長

8 月 5 日に、ホテルライフォート札幌において、全国研究部会を開催しました。

研究部長の他、研究部副部長（9 名）、研究委員長（3 名）、大会運営委員会（3 名）、大会準備委員会（3 名）、瀧澤隆司会長、全国事務局長、事務次長、顧問等が出席しました。

北海道大会研究発表の確認、『研究集録』の編集、『調査研究集』の編集、平成 28 年度特別調査県（北信越地区）の確認、第 3 回全国理事研究協議会講話講師の選定、第 2 回理事研究協議会全国テーマ、本年度地区研究協議会の状況や予定について確認を行いました。

8 月 26 日は、事務局内にて研究集録編集会議を行いました。研究部長の他、浅川秀人高校研委員長（山梨）、仁平宏三生徒研委員長（栃木県）、事務局長、事務次長が出席しました。

第 40 号の対象となるのは、平成 26 年度に刊行された各県の会誌、研究紀要、研究集録、研究協議会報告等でした。予備選考と本選考の結果、以下のとおりとなりました。

①管理運営研究部門（3 本）・秋田県「保護者や地域住民からの苦情やトラブルへの対応の実態と課題」・兵庫県「大規模災害発生時の学校と淡路島 3 市の連携の在り方」・大分県「第三者評価に関する調査研究」

②高校教育研究部会（3 本）・山形県「基本的生活習慣の確立と計画的な学習の実践」・茨城県「観点別学習状況の評価の取り組み状況について」・千葉県「授業における『言語活動』の実践と今後の展開」

③生徒指導研究部門（3 本）・静岡県「ピア・サポート」・広島県「生徒指導体制の構築に向けた教頭のリーダーシップについて」・山口県「道徳的観点を取り入れた生徒指導の取組」

以上 9 本を集録させていただきました。

(東京都立篠崎高等学校 副校長)

地区研究協議会報告



北海道地区

全国常任理事
研究副部長 岩田 努
北海道事務局長

367 名の会員からなる北海道の教頭・副校長会は、例年 5 月と 11 月に全道から会員が集まり研究協議会を開催しています。今年度は、8 月の全国大会が北海道で開催される関係上、5 月のみの開催となりました。

○総会・第 1 回研究協議会

期日 5 月 20 日（水）・21 日（木）
会場 札幌市 ホテルライフォート札幌
参加者 313 名

1 日目の開会式では札幌北高の家近会長が「国や道の動向を踏まえ、高校生の多様な現実に対応し教育の質を保証するためには、まずは副校長や教頭の資質向上を図らなければならない。また、8 月の全国大会開催に向けて、チーム北海道としてひとつになって取り組んでいきたい」と述べ、力強く新年度のスタートを切りました。さらに、ご来賓の北海道教育庁教育指導監、札幌市教育委員会教育次長、北海道高等学校校長協会副事務局長、全国教頭・副校長会長からご挨拶を賜り、励ましと期待に包まれて今年度の総会・研究協議会は始まりました。

総会後の全体会では、道教育庁教育指導監に「教頭・副校長に期待すること」と題して講話をいただきました。・期待される管理職の資質・能力、・管理職の立場から見た課題の整理、・危機管理対策の充実、・教育の潮流を読むこと、等をポイントとし、それについて重点を示しながら、副校長・教頭に管理職としての資質向上を求め、組織づくりと危機管理体制の構築について、ご自身の経験を踏まえながらご助言をいただきました。

続いて、道高等学校校長協会副事務局長に、「高等学校教育の動向、そしてマネジメント」と題

して講話をいただきました。・教育再生実行会議、・中央教育審議会、・次期学習指導要領改訂に向けた検討事項、・高大接続改革実行プランの予定スケジュールと予想される主な対応、・生徒指導・学校安全、・コンプライアンス、・学校職員評価制度、・時間外勤務縮減に向けた取り組み、・ダイバシティ教育、等をポイントとし、国や道の動向を整理し、改めて各学校における課題解決に向けて更なる意欲を喚起する機会となりました。

2 日目は 3 領域で分科会を実施しました。

(1) 「管理運営」

根室高校の防災教育「危機管理意識高揚のために～みんなでぼうさい～」（根室）

・根室高校がある北海道東部地域は、地震や津波、加えて台風から変わった温帯低気圧等の影響を受けやすい地域であることから、根室市自体が防災・減災に熱心であり、関係機関との連携強化の中、校内の学校安全委員会を核として避難訓練、学年ごとの防災教室、高校生防災会議、幼稚園との連携等の防災教育を推進している。

(2) 「教育課程・学習指導」

「地域・産業界で必要とされる人材の育成～小樽水産高校における教育実践～」

（小樽水産）

・H25 年度から道教委の学力向上推進事業に関する取組として、長期企業実習、販売実習、小中学校との異校種間連携、学校開放講座、「小樽水産高校の元気まぐろ」販売等、様々な教育実践を行っている。

(3) 「生徒指導、進路指導、特別活動」

「本校における特別支援体制」について

（遠別農業）

・小規模校職業学科の特性と関係機関との連携や各種検査を活用し、学校全体で特別支援の必要な生徒の情報を共有・理解することにより、支援を行っている。

「本校定時制課程における取組」（室蘭栄）

・行動に問題がある、特別支援が必要、疾患を抱えているなど多種多様な生徒が入学している現状で、個々の課題を解決し、教育活動を展開している

各発表を参考に、自校の学校力向上につなげるための熱心な研究協議が行われました。

また、今年度は第 54 回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会を北海道を主管として、8 月 5 日（水）～7 日（金）に札幌市で開催しました。今大会は、統一主題を「志を持って主体的に学び社会に貢献する力を育む高校教育の推進～グローバル社会を生き抜く人材育成を目指して～」とし、初日はホテルライフォート札幌で、全国研究部会、全国理事研究協議会が行われました。例年、この時期の北海道は爽やかな暑さなのですが、今年は一軒猛暑となり、特に会期中はこの夏一番の暑さとなり、がっかりされた方も多いのではないかと思います。2 日目からは会場を札幌市教育文化会館に移し、午前は開会式・講話・総会、市立札幌大通高校の和太鼓・伝統芸能部による歓迎公演が行われました。午後の講演後は札幌プリンスホテル会場を加え、3 つの分科会を行い、最後まで熱のこもった協議が行われました。

終わりに、本大会を通じて全国各地から多数の先生方に参加をいただき、成功裏のうちに閉会を迎えられましたことを、主管であります北海道を代表して、心よりお礼申し上げます。来年は、東京の地で皆様に、またお会いできることを楽しみにして、北海道地区の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

（北海道札幌西陵高等学校 副校長）



東北地区

全国常任理事
研究副部長 菅原 一成
岩手県会長

平成27年度東北六県高等学校教頭・副校長会研究協議大会（岩手大会）

期 日 平成27年10月22日（木）23日（金）

会 場 ホテルメトロポリタン盛岡

主 管 岩手県高等学校副校長協議会

今大会は東北六県より 150 名が参加し開催されました。開会行事では大会運営委員長挨拶に続

き、岩手県教育次長、岩手県高等学校長協会会長、全国より錦織事務局長からご祝辞をいただいた。

大会初日は、開会行事の後、研究協議ⅠとⅡ、各県情報交換と続き、さらに教育懇談会で交流を深めた。2 日目は研究協議Ⅲ、記念講演会、そして、閉会式となる。以下に、内容を紹介する。

研究協議Ⅰ（管理運営部門）

「在校時間調査による職員の超過勤務の現状と課題について」

発表者：福島県立白河実業高等学校 松本善法
指導助言：

教職員課県立学校人事課長 山形守平

岩手県立盛岡第二高等学校長 土川 敦

教職員の長時間勤務による健康障害防止の為、平成26年度から在校時間記録簿の提出を実施している。管理職として、先生方とのコミュニケーションを大切にすること、学校全体でできることを明確化して進めている。会場から、やらなければならないことと、やらなくても良いことを明確に指示することも必要だと指摘があった。助言者からは、県でも実態把握に努め多忙化解消モデル校を指定して取り組んでいること。管理職の過半数は残業が毎月 80 時間以上の残業であることなどの報告をいただいた。また、多忙感を持たないような環境づくりへの配慮などの指摘があった。

研究協議Ⅱ（高校教育部門）

「高校教育の質の確保・向上について」

発表者：山形県立米沢商業高等学校 皆川政浩
指導助言：

学校教育室高校教育課長 岩井 昭

岩手県立盛岡北高等学校長 内藤 賢一

山形県の高校では、観点別評価の導入が進んでいないということ、生徒の学力の保証のために朝学習や再テストなど各校の具体的手立てについて報告があった。また、新テスト導入へ向けての対応は、まだ様子見の状態が多い。助言者からは岩手県で平成28年度から観点別評価を完全実施する方向であること。基礎力確認調査を実施し、学力保証に役立てていることの紹介があった。また、生徒を動かす学習活動のよう

な授業改善こそが質の保証に結びつくとの指摘があった。

研究協議Ⅲ（生徒指導）

「東日本大震災後の被災地生徒への支援について」

発表者：宮城県気仙沼高等学校 菅野定行

指導助言：

学校教育室生徒指導課長 大林裕明

岩手県立不来方高等学校長 平藤 淳

震災後、生徒たちの心の傷の回復にはまだまだ取組みが必要である。宮城県沿岸部を中心としたスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの活用状況について報告があった。これに伴い各県での活用状況やカウンセリング養成講座等の情報交換がなされた。助言者からは、岩手県の震災後の心のケアに関する取組みについての説明、また結果を緻密に分析することと学校としてカウンセリングマインドを持つことの大切さについて指摘があった。

情報交換

「小規模校の活性化策について」

「高等学校における特別支援教育の在り方について」

以上2つのテーマに関して各県よりの情報提供と会場参加者との意見交換を行なった。

記念講演会

演題：「遠野物語について」

講師：学習院大学文学部教授 赤坂憲雄氏

遠野物語第99話を切り口に、自然と共生しながら身の丈にあった暮らしをすることの大切さと東日本大震災後の状況について、死者との和解をテーマとした興味深い講演であった。

紙上発表

「岩手県内の高等学校・特別支援学校における防災教育の実態と課題」（管理運営）

発表者：岩手県立大槌高等学校 鈴木 尚

「キャリア教育の充実に向けて」（高校教育）

発表者：秋田県立角館高等学校定時制 小松弘樹

「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育事業に係る研究開発について」

（生徒指導）

発表者：青森県立五戸高等学校 渡邊 潔

最後に、閉会行事では、次年度開催の秋田県

より挨拶があった。

（岩手県立盛岡第一高等学校 副校長）



関東地区

全国常任理事
研究副部長 小芝 一臣
千葉県会長

平成 27 年度関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会千葉大会

期 日：平成 27 年 11 月 20 日（金）

会 場：ホテルポートプラザちば

主 管：千葉県高等学校教頭・副校長協会

参加者：203 名（茨城県 12 名、栃木県 11 名、

群馬県 10 名、埼玉県 17 名、神奈川県 8 名、
神奈川 3 市 4 名、山梨県 6 名、東京都 20 名、
千葉県 115 名）

テーマ：「学校・家庭・地域が連携して取り組む高等学校教育」

開会式では、御来賓の全国高等学校教頭・副校長会会长の瀧澤隆司様をはじめ、千葉県教育庁教育振興部指導課長の小川哲史様、千葉県高等学校長協会長、千葉県立柏高等学校長の吉開潔様より御挨拶をいただきました。

開会式終了後は、千葉商科大学教授・国際教養学部長の宮崎緑様をお招きして、「グローバル人材の育成」の演題で御講演をいただきました。宮崎緑様は、皆様ご存じのとおり、NHK のニュースセンター 9 時の初の女性キャスターとして御活躍された方で、東京工業大学講師を経て、千葉商科大学教授、同大学情報政策学部長に就任され、今年から同大学に新設された国際教養学部長になられました。中教審の委員をはじめ、国の様々な委員や神奈川県教育委員などを歴任され、現在は東京都教育委員を務めておられます。先生の経験を元に世界で通用する人材の育成について様々な観点からお話ししていただき、参加者一同から大変好評を得ました。

研究協議では、一都三県の各代表者から研究発表があり、それぞれの研究に対して、千葉県教育庁教育振興部指導課主幹兼学力向上室長の佐藤宰様と千葉県高等学校長協会副会長、千葉

県立千葉高等学校長の鈴木政男様より御指導、御助言をいただきました。それぞれの研究発表の内容は次のとおりです。

1 「地域から望まれる高校の在り方について —中学生・保護者・教員へのアンケート調査 を通して—」

群馬県立伊勢崎工業高等学校 藤生卓也
伊勢崎佐波地区の中学生や保護者、中学校教員に以下の項目についてアンケート調査を行い、結果を分析した。なお、調査は普通高校のほか特別支援学校についても行った。

- ①進学したい（させたい）地域について
- ②その地域を選んだ理由
- ③高校進学で重視すること
- ④進学したい（させたい）学科
- ⑤高校の情報収集の方法
- ⑥高校選択時の相談相手
- ⑦高校生活への期待

アンケート調査を通して、地元中学校の様子や中学校教員の考慮していることが明確になった。分析結果をもとに「地域から望まれる高校の在り方」について具体的な対応策を示した。

2 「外部との連携による学校教育力の向上について」

埼玉県立川越総合高等学校 服部 修
埼玉県内の全日制の公立高等学校の外部連携について、実態を把握するとともに、効果的な取組を参考にして各学校の教育活動の充実を図ることを目的にアンケート調査を実施し、調査結果について考察し、外部との連携による学校教育力の向上について現状と課題を整理した。

また、単位制総合学科の川口総合高校の農業科学系列が行っているマスクメロンの生産・販売を通して行う職業教育や生活デザイン系列が行っている家庭科の授業における外部人材の活用などについて具体的な実践例を紹介し、本校における地域連携の成果と課題を報告した。

3 「学校が発信する SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の運用について」

東京都立南葛飾高等学校 外川裕一
東京都教育委員会では平成 25 年にソーシャルメディアポリシーを策定し、ソーシャルネットメディアを有効かつ適切に利用するための基

本的な考え方や留意事項を明らかにし、必要な基本方針を定めた。また、同ポリシーの周知に合わせ、都立学校における SNS に関する諸規程類の策定及び事務手続きについて通知された。これを踏まえて、SNS の利活用に関する現状をアンケート調査し、今後各学校が情報発信する際の改善の参考の資料とした。

生徒・保護者との連絡手段として SNS は重要であり、情報を瞬時に発信できる利便性と共に情報セキュリティ上の課題や SNS 運用上の課題などが明らかになった。

4 「学校評価に関する調査から見えてきた連携充実へのヒント」

栃木県立足利工業高等学校 大崎逸夫

昨年度、「学校評価に関して（パートⅡ）～実効性の高い学校評価を目指して～」と題して、県立高校を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「学校評価が、保護者や地域住民等との信頼関係の構築や連携・協働を促すコミュニケーション・ツールとして活用できている」と実感している学校は、①全教職員が学校評価における目標等を共有しながら日々の教育活動を行っている。②保護者や地域住民等が求めている情報を把握し、分かりやすく情報を提供している。の割合が高かった。自校の地元商工会議所との連携実践例も取り上げ、地域との連携は、取組を一部の活動に終わらせず、いかに学校内外に広げるかが課題であり、連携充実のヒントであるとしている。

閉会式では、次年度開催県の埼玉県から挨拶と紹介があり、研究協議会を終了した。

(千葉県立長生高等学校 教頭)



東京地区

全国常任理事 榎 茂喜
東京都副部会長

平成 27 年度東京都立高等学校副校長研究協議会を教育庁指導部及び各地区の学校経営支援センターのご支援をいただき平成 27 年 8 月 18 日(火)に東京都立総合芸術高等学校講堂等を会場として実施いたしました。会場が学校での開催

となりましたが、165 名の副校長が参加いたしました。

分科会では、研究主題を『都民に信頼される魅力ある都立高校づくりを目指して』として、4 つの分科会（管理運営、高校教育、生徒指導、定時制通信制）において 7 つの主題の研究発表及び研究協議を行い、活発な質疑応答が交わされ、教育庁指導部の指導主事の先生方から指導講評をいただきました。

全体会においては「アクティブラーニングについて」の講話をいただきました。

分科会（午後 1 時 30 分から午後 3 時）

第 1 分科会（全日制 管理運営研究部）

講堂

発表① 主題：「学校が発信する SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の運用について」

第一委員会 東部 A チーム

外川 裕一（南葛飾）

発表② 主題：「都立学校における OJT の組織的な取組状況について」

第二委員会 東部 C チーム

笹沼 克宜（つばさ総合）

指導講評：教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 小林 靖先生

第 2 分科会（全日制 高校教育研究部）

アンサンブル室 3

発表① 主題：「国際理解教育に関する諸事業の実践」

第一委員会 西部 C チーム

尾崎 肇（武蔵附属中）

発表② 主題：「若手教員育成における副校長の役割」

第二委員会 中部 A チーム

林 達也（芦花）

指導講評：教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 福田 由紀子先生

第 3 分科会（全日制 生徒指導研究部）

大論理室

発表① 主題：「スクールカウンセラーの活用に向けて（教育相談の現状について）」

第一委員会 中部 C チーム

黒後 茂（王子総合）

発表② 主題：「オリンピック・パラリンピック教育における各校の取組について」

第二委員会 西部 A チーム

増田 雅子（町田総合）

指導講評：教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 小泉 博紀先生

第 4 分科会（定時制・通信制）

視聴覚室

発表① 主題：「中途退学の未然防止について」

西部研究委員会

古閑 伸幸（立川）

指導講評：教育庁指導部高等学校教育指導課

統括指導主事 松本 桂先生

各分科会とも充実した調査研究による発表が行われ、活発な協議のあと貴重な指導助言を頂きました。

全体会（午後 3 時 20 分～午後 5 時講堂）

福田洋三東京都公立高等学校副校長協会長、瀧澤隆司全国高等学校教頭・副校長会長、増田正弘指導部高等学校教育指導課長よりご挨拶を頂いた後、「学習意欲を高め学力の向上につなげる授業改革～アクティブラーニングの意義と実践について～」と題して、産業能率大学入試企画部長、林 巧樹様から講話を頂きました。新しい教育の流れに対して、知識や理解を深め、今後の対応など学校の組織的な運営に向けて大きな参考となるものでした。

また、佐藤 聖一主任指導主事より『新教科「人間と社会（仮称）」について』及び『高等学校基礎学力テスト（仮称）と大学入学希望者学力評価テスト（仮称）について』の説明がありました。

（東京都立武蔵高等学校 副校長）



北信越地区

全国常任理事
研究副部長 齐藤 則章
長野県会長

平成 27 年度北信越地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会
大会テーマ「志を持って主体的に学び社会に貢

献する力を育む高校教育の推進」～グローバル社会を生き抜く人材育成を目指して～
 (全国高等学校教頭・副校長会統一主題)
 期日：平成 27 年 11 月 12 日（木）～13 日（金）
 会場：長野ホテル犀北館
 主管：長野県高等学校教頭・副校長会
 参加者：176 名（富山県 35 名、石川県 6 名、
 　　福井県 14 名、新潟県 25 名、
 　　長野県 96 名）

連絡協議会に先立ち、5 県の会長会議を開催した。会議では、主管県の長野から今回の連絡協議会の日程と内容についての確認、次年度開催県の富山から日程と内容についての連絡があった。その後、今後の連絡協議会開催県及び全国大会の発表県の輪番等を確認した。

開会式には、全国高等学校教頭・副校長会から針馬利行顧問・事務次長様、長野県教育委員会から菅沼尚教育次長様、長野県高等学校長会から内堀繁利様をはじめとする来賓の方々のご臨席を賜り、ご祝辞をいただいた。

研究協議 I

(1) 研究発表①

「飯田 OIDE 長姫高等学校の取組」

（長野県飯田 OIDE 長姫高等学校
 教頭 松村 真一先生）

平成 25 年度に 2 校が統合し、全国的に珍しいアルファベットが校名に入った高校として開校した。専門高校として様々な取組を行っているが、特に工業科と商業科を抱える学校として、共通の必修科目「総合技術」を設定し、両科の学科を超えた融合を目指している。こうした取組をとおして、地域との結びつきを図るイベントにも参加しながら、キャリア教育の推進も目指していることが報告された。

(2) 各県情報交換

北信越 5 県の会長から、それぞれの県の施策や教頭・副校長会の取組について報告があった。県によってそれぞれ特徴のある取組について聞くのは大変興味深かったが、子どもたちの生きる力をつけるための「21 世紀学力」を伸ばしていくという視点は各県とも共通していた。

講話

「長野県教育の現状と課題」

（長野県教育委員会高校教育課長
 今井 義明様）

講話の中では、まず数年前に相次いだ教員の不祥事を契機とした様々な非違行為防止のための取組の一つとして、「匿名性を担保した授業評価・学校評価」が紹介され、その活用方法や効果も含めた実施状況が報告された。続いて、本県の入学者選抜制度や高校再編計画の概要についても説明していただき、本県独自の課題が明確になる講話であった。

こうして 1 日目の日程を無事終え、締めくくりとして教育懇談会が催された。針馬事務次長様や今井高校教育課長様をはじめとする来賓の皆様のご臨席を賜り、盛大な懇談会となった。県内の農業高校から提供されたワインを味わいながら、県の枠を超えた活発な情報交換が行われ、親睦を深めた。

(2 目)

講演

「真田家の人材育成」

（松代文化施設等管理事務所
 学芸員 降幡 浩樹様）

講演では、真田家が戦乱の世を生き抜き、大名家として存続し続けることができた理由を中心にお話しいただいた。周囲を強敵に囲まれ、逆境の中で生き残るために、多様な戦略を駆使する必要があり、中でも力を入れたのが「人を育てる」ことであったとの説明は大変説得力があった。現在の高校がおかれた状況と照らし合わせると、示唆に富んでいた。本年から NHK 大河ドラマ「真田丸」がスタートするということもあり、タイムリーな講演となった。

研究協議 II

(1) 研究発表②

「世界・日本・地域と私たちをつなぐ」

～ SGH2 年目を走りながら考える～

（長野県長野高等学校
 教頭 小川 幸司先生）

昨年度スーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定され、2 年目を迎えて取組の充実を図る時期となっている。推進体制の強化、発信の基礎となる英語教育の充実、テーマである

「観光」の再定義など、文字通り「走りながら」改善に努めている。探究活動を中心とした学びの形を作り上げることには多くの課題があるが、新たな「知」を育てるうことの重要性についてアカデミックな切り口から説明があった。

(2) 平成 28 年度開催県（富山県）挨拶

富山県会長の魚津高等学校教頭山形先生から、富山県の紹介と来年度の連絡協議会の概要をお話しいただいた。

各県の会長さんや長野県会員をはじめ多くの方々にご協力いただき、成功裏に終了できた。この場をお借りし、御礼を申し上げたい。

（長野県上田高等学校 教頭）



東海地区

全国常任理事
研究副部長 三宅 美香
愛知県会長

平成 27 年度東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会及び研究協議会

期 日：平成 27 年 10 月 16 日（金）

会 場：静岡県浜松市 ホテルクラウンパレス
浜松

主 管：静岡県立学校教頭会

参加者：205 名（静岡県 131 名、愛知県 32 名、
名古屋市 12 名、岐阜県 13 名、
三重県 17 名）

(1) 総会

静岡県教育委員会杉山行由教育次長、静岡県高等学校長協会鳥居春仁会長、全国高等学校教頭・副校長会瀧澤隆司会長より御祝辞をいただき、総会を開催した。

総会では平成 26 年度の事業報告、決算報告・会計監査報告、平成 27 年度の役員改選、事業計画、予算について報告・提案し、承認された。

(2) 研究協議会

午後の研究協議会では、次の 5 題の発表があり、静岡県教育委員会高校教育課渡邊紀之参事兼指導班長から指導講評をいただいた。

研究協議 I

教頭業務の現状と多忙化改善のための取組
(愛知県立岡崎北高等学校 阿部 卓巳先生、

同岡崎西高等学校 加藤 真理子先生、

同岡崎商業高等学校 水野 修治先生)

近年、教頭業務はいっそう多様化・多忙化している。愛知県立学校教頭会は、毎年実施し蓄積してきた「教頭の勤務と健康に関する調査・研究」のデータを基に「教頭の業務とストレス」の変化について調査し、教頭の多忙化の現状を明らかにした。その上で、今後の教頭職をより活力あるものにする方策として、職員や教頭自身の多忙化軽減のための各校における工夫事例等が報告された。学校の状況は様々であるが、大変共感するところが多く参考になった。

研究協議 II

スーパーグローバルハイスクール（SGH）の取組

（岐阜県立大垣北高等学校 村橋 裕之先生）

平成 26 年度から大垣北高等学校で実施されている「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の取り組みが紹介された。その中心となる学校設定科目「SGH 課題研究 1」における、5 領域（国際開発・国際ビジネス・環境エネルギー・国際医療・比較教育）から 1 領域を選択して取り組む探究的学習の様子や、「SGH 課題研究 2」におけるゼミ形式の授業など、グローバル化に取り組む大学や、海外展開を図る地元企業との連携・協力を得て推進されている研究の内容が紹介された。

研究協議 III

県立学校における生徒の学力向上・定着のための取組

（三重県立名張西高等学校 堀 昌弘先生）

三重県内で「基礎学力の向上・定着」に積極的な取組をしている高等学校の事例報告があった。その取組手法や成果、課題等を共有できるように、各校の教頭が「教頭として」どのように取り組んだのかを中心に説明がなされた。

さらに三重県内のすべての県立学校の教頭を対象にしたアンケートの調査結果が公表されて、各学校における生徒の学力向上を図るために組織体制づくりや具体的な取組内容等について紹介された。

研究協議 IV

ピア・サポート～浜松江之島高校の活動を通

して～

(静岡県立浜松江之島高等学校 中村 尚介先生、山縣敦男先生)

2012 年より本格的に導入した。初年度は保健委員を対象に 10 回のピア・サポートトレーニングを実施。以後は希望者(約 50 名)対象に実施。コミュニケーション能力の育成、対人関係を育成する能力の育成、自己肯定感の育成をし、ピア・サポーターを育てている。

生徒通しのつながりの中で、不登校やいじめの防止につなげている。ピア・サポーター自身がこの活動を通して成長し、様々な状況に対処できる人間になることに意義があると感じた。

研究協議Ⅴ

名古屋市立高等学校における生徒の自主活動を支援する取組

(名古屋市立名東高等学校 永井 年彦先生)

発表された取組には、「名古屋市立高等学校体育大会」「名古屋市立高等学校教育祭展覧会」「名古屋市立高等学校教育祭音楽会」のような伝統あるものがある一方、「和の祭典」「中・高生による『夢チャレンジ』支援事業」(「夢チャレンジ事業」)のような近年始まった取組もあった。

どの発表も意欲的でわかりやすく、時間が経つのが早く感じられた。内容はいずれも今日的課題に対応した実践的なものであり、大きな示唆を与えられた発表であった。

(愛知県立名古屋西高等学校 教頭)

近畿地区



全国常任理事
研究副部長 宮根 隆
大阪府会長

近畿地区連絡協議会 奈良大会報告

平成 27 年度近畿地区連絡協議会(参加 113 名)

期日：平成 27 年 11 月 6 日(金)

会場：ホテルリガーレ春日野

近畿地区連絡協議会は、平成 27 年 11 月 6 日(金)、近畿地区各府県から 113 名の教頭・副校長が集い、標記の協議会が開催されました。

開会に先立って、午前 9 時より近畿地区各

府県の会長・副会長にご出席いただき、「近畿地区理事会」を開催し、本協議会開催にいたるまでの経過報告あり、近畿地区連絡協議会の申し合わせ事項を確認し、平成 28・29 年度の開催・主管府県、全国大会における研究発表についての確認などが議題となりました。なお、平成 28 年度の近畿地区連絡協議会は、和歌山県を主管として開催することが確認されました。

午前 10 時に協議会が開会し、開会行事では、奈良県教育委員会の吉田育弘教育長、奈良県高等学校長協会の谷垣康会長、全国高等学校教頭・副校長会の瀧澤隆司会長よりご祝辞をいただきました。

記念講演は、春日大社宮司の花山院弘匡氏より、「神道と日本人の心」と題してご講演を頂きました。元奈良県立高等学校の教員であった氏のユーモアあふれるエピソードを交えた話は、時が立つのも忘れさせてくれるような内容で、もともと神道の国であった日本が仏教を上手に融合していったお話、奈良の鹿が神のお使いであるお話、神殿の改修の際神をお移しする際に複数の人が風が通ったことを感じたお話など、興味深いお話が多く、時間さえ許せばいつまでもお聞きしたい講演でした。

午後の研究協議では各府県から以下の発表があり、いずれも中身の濃い充実したものでした。

(1) 和歌山県「紀北地方の防災教育について」(和歌山県立笠田高等学校 岡泰宏教頭より)

現状では津波災害の予想される紀南地方に比べ紀北地方は防災意識が低い現状がある。しかし、台風等における河川の氾濫等の気象災害や、活断層が存在し地震による土砂崩れなどの災害の危険性がある。このことを周知していくことにより防災意識を高める必要がありその取り組みをしているという発表でした。

(2) 大阪府「教志コース～進路希望を実現させるために」(大阪府立高槻北高等学校 宮城良明教頭より)

特色が少なかったために、進学実績等が伸び悩んでいた学校を改革するために、教育を志す生徒を対象とした教志コースを設置し、学習意欲の向上を図る取り組みの紹介でした。オムニバス形式で 21 大学 25 人の講師で教志入門(講

義) という学校設定科目の実施や地域の保育所・幼稚園・小中学校との連携による教志入門(体験)で地域に根ざした教育活動の実践の発表でした。

(3) 滋賀県「本校のキャリア教育・就労支援の取り組みについて」(滋賀県立湖南農業高等学校 加藤靖教頭より)

キャリア教育の充実のため、国語・数学・外国語における基礎基本の定着について学校設定科目の実施や「派遣実習」等の学校設定科目の実施を通して生徒の学習意欲や意識の向上に役立てている。また、特別な支援を要する生徒の就労支援の発表と就労支援ネットワーク会議・就職支援コーディネーターの配置の発表でした。

(4) 京都府「ここからみらいへ～清明高校を開校して～」(京都府立清明高等学校 中江祐副校長より)

清明高等学校は平成 27 年度に開校した昼間二部・単位制・普通科の単独校である。「京都フレックス学園構想」に基づき、「学びアンダンテ」を基本コンセプトに 120 名の生徒に合わせ 114 通りの時間割を実施している。ICT 機器の活用も充実し全員にタブレットを貸与している(2 年次に購入)。相談体制も充実しスクールカウンセラーも 5 名配置である。ただし相談件数 9 月末現在 700 件超と課題もある。という発表でした。

(5) 兵庫県「学び、育て、支える兵庫の教育の在り方を求めて～高校生へのアンケート調査から～」(兵庫県立明石南高等学校 塚田誠司教頭より)

事情により残念ながら誌上発表になりましたが、10 年間における生徒の意識の変化を 3 年ごとにアンケート調査によって追跡した資料は「土曜日の活用」「授業のスピードの感じ方」等、興味深いものがありました。

(6) 奈良県<誌上発表>「地域との連携を活性化するために」(奈良県立畝傍高等学校 中川好成教頭より)

校内の組織作りと他団体との調整・各種団体との連携方法・連携の深化と継続性・地域住民との連携の促進。4 つの観点からモデル校 7 校

を含め各校で取り組んでいる「地域とともにある学校づくり」の実践を整理し、各校に報告を戻し今後に生かしていく内容の発表でした。

最後に、奈良県教育委員会学校教育課の大西英人課長と奈良県高等学校長協会の谷垣康会長より、丁寧な指導助言をいただきました。

閉会行事では、来年度の協議会開催県の和歌山県の湯川昌彦会長からご挨拶があり、来年の和歌山県での再会を約束して協議会を終了しました。

最後になりますが、本連絡協議会の開催に向けてご支援・ご協力いただきました、奈良県の森下会長を始めとする関係の皆様に深く感謝いたします。
(大阪府立和泉高等学校 教頭)



中国地区

全国常任理事
研究副部長 秋葉 直之
岡山県会長

中国地区研究協議会は隔年で開催しており、本年は島根県が主管し、北海道での全国大会が開催された翌週の 8 月 10 日、11 日の両日、110 余名の参加を得て、松江市のサンラポーむらくもにおいて開催しました。

開会行事では、来賓として全国高等学校教頭・副校長会事務局長錦織政晴様をはじめ島根県教育委員会教育長藤原孝行様、松江市教育委員会教育長清水伸夫様、島根県公立高等学校長協会会长泉雄二郎様らのご出席を賜るとともに、ご祝辞をいただきました。また、主管県会長からは、今日の学校現場が直面する課題や、これからの中長期的な教育活動を推進していくにあたって取り組むべき事柄などが示され、本協議会の取り組みを更に発展させ、我々自身が日々精進していくかねばならない旨の話がありました。開会行事に引き続き、「教育者、ラフカディオ・ハーン」と題して、松江市にゆかりの深いラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の曾孫にあたる島根県立大学短期大学部教授小泉凡氏による記念講演が行われ、教育者としてのハーンの横顔を知ることができました。

研究発表・協議では、「学校運営」「学習指

導」、「生徒指導」の 3 分科会に分かれ、2 日間でそれぞれ研究発表と協議題提案が 4 本ずつ、計 12 名の発表者による熱のこもった発表がありました。

「学校運営」分科会 1 日目では、山口県立徳山商工高等学校教頭久保田力哉先生によって、ミックスホームルーム制を中心とした「ビジネス教育とものづくり教育の融合への取組」についての発表と、鳥取県立智頭農林高等学校教頭徳田章人先生によって、「地域連携をとおした取組」について協議題提案がありました。質疑応答の後、ミックスホームルームの様々な実践事例と課題、また、地域連携については、未来志向型学校経営、地域・社会とつながることの意義、地域連携の効果的な進め方、地域連携と授業改革などについて、刺激的かつ未来を見据えた助言がありました。

2 日目には、島根県立津和野高等学校教頭宮島忠史先生によって、「地域連携を通した高校魅力化」についての発表と、岡山県立津山工業高等学校教頭藤岡康弘先生によって、持続可能な地域の担い手の育成のための「中山間地における高校の役割」について協議題提案がありました。質疑応答の後、県外に出るべき、県内に残るべき、のような指導ではなく、高校時代に地域への関心を埋め込んでおき、将来何らかの形で地域に貢献できるようになればよいとの助言がありました。

「学習指導」分科会 1 日目では、鳥取県立米子工業高等学校教頭深田直先生によって、地域産業の変化や少子化という環境変化に対応するための「学科改編の取組」についての発表と、島根県立三刀屋高等学校教頭新宮成浩先生によって、「地域でつなぐキャリア教育」について協議題提案がありました。質疑応答の後、地域で起こっている課題を子どものアイディアでチャレンジしていくことの意義、また、管理職としての視点の必要性、キャリア教育をイベント評価としてだけでなく、身につけた事柄を授業にいかに生かすかということについて助言がありました。

2 日目には、岡山県立西大寺高等学校副校長の私が、「高い志を抱かせる指導」に関する調

査研究の発表と、広島県立安古市高等学校教頭倉本恵美子先生によって、アクション・リサーチをコアとする取組を事例として、「学び続ける教職員の育成に資する組織的な授業づくり推進体制の構築」について協議題提案をしました。質疑応答の後、様々な情報を仕入れ、先進事例の根底に流れている考え方や共通する部分を学ぶことの意義、生徒の変容を入試や進路結果だけでなく、少し長いスパンで考え、追跡することが大切であるとの助言がありました。

「生徒指導」分科会 1 日目では、島根県立出雲商業高等学校教頭日向伸之先生によって、「高校で取り組む情報モラル教育」についての発表と、山口県立長府高等学校教頭岡邦彦先生によって、「道徳的視点を取り入れたキャリア教育の取組」について協議題提案がありました。質疑応答の後、情報を判断するプロセスやメディアリテラシー教育の重要性、心の教育の必要性などについて助言がありました。

2 日目には、広島県立大崎海星高等学校教頭平原範昌先生によって、「生徒指導体制の構築に向けた教頭のリーダーシップ」についての発表と、岡山県立玉島高等学校副校長土谷富久先生によって、「社会貢献活動の取組」に関する協議題提案がありました。質疑応答の後、生徒指導の組織的な対応、資質・専門性を高めていくような人材育成の必要性について助言がありました。

1 日日の研究協議会後、「教育懇談会」を開催しました。錦織事務局長をはじめ、島根県教育委員会教育監小林邦彦様、島根県教育庁学校企画課長高橋泰幸様、島根県教育庁教育指導課長山崎敦史様をはじめ、多くの来賓の皆様を含む県内外約 80 名の参加を得て、盛大に行うことができました。

12 名の発表された教頭・副校長先生には、校務ご多忙の中、発表準備を含めて、素晴らしい発表、協議題提案をしていただき、感謝しています。（岡山県立西大寺高等学校 副校長）



四国地区

全国常任理事
研究副部長 竹村 直
高知県会長

第 30 回四国高等学校教頭・副校長研究協議会が、平成 27 年 10 月 22 日(木)・23 日(金)にホテル日航高知ロイヤルで開催されました。「地域に根ざし未来を創造できるたくましい人づくり～確かな学力と豊かな人間性を育てる高校教育の実現～」の主題のもと、122 名の教頭・副校長の参加がありました。開会式では来賓の全国高等学校教頭・副校長会顧問 玉井篤様、高知県教育長 田村壯児様、高知県高等学校長協会会长 池康晴様の 3 名から激励と歓迎の祝辞をいただきました。

開会式後、株式会社丸三会長 岡内啓明様から「私のライフワークとしてきたこと～高知の顔づくり人づくり～」と題して講演をしていただきました。岡内様が、高知県を盛り上げるために取り組んでこられた企業経営や観光コンベンション等、様々な活動をエピソードを交えながら話してくださいました。何事にも挑戦することとともに全てのもとになるのは人である…明日の人材を育む教育の重要性を再認識しました。

その後、愛媛県立宇和島南中等教育学校 中岡生文教頭、香川県立津田高等学校 池田正樹教頭、徳島県立那賀高等学校 湊雅邦教頭、高知県立高知東工業高等学校 北村晋助教頭の 4 名から研究発表があり、質疑応答後、高知県立中村高等学校長 上岡哲朗様より指導助言をいただきました。

夜の部では、教育懇談会に先立ち高知海洋高等学校のツナガール 3 名によるマグロの解体ショーを実施しました。かよわい女子生徒が、30 キロもあるマグロを解体していくことは大変なことだと思いますが、見事に解体して場を盛り上げてくれました。解体したマグロはホテルで刺身とにぎり寿司に調理していただきましたが、好評ですぐになくなってしまいました。教育懇談会では、土佐の「おきゃく」の酒の飲み方で大いに盛り上がり、先生方は各校の情報交換等、楽しく有意義な時間を持つことができま

した。

2 日目は、愛媛県立新居浜工業高等学校 武田正彦教頭、香川県立志度高等学校 鏡原寿吉教頭、徳島県立名西高等学校 西木正教頭、高知県立春野高等学校 弘瀬拓生教頭の 4 名から研究発表があり、質疑応答後、高知県教育委員会事務局高等学校課課長補佐 高野和幸様より指導助言をしていただきました。閉会式では、次期開催の愛媛県会長 二宮久幸様より閉会の挨拶があり、この大会の総括と愛媛大会への参加要請をしていただきました。2 日間にわたる研究協議会は、8 名の教頭先生方の充実した発表のおかげで、成功裡に終えることができました。各県の会長様をはじめ参加者の皆様に、改めまして、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

(高知県立高知東高等学校 教頭)



九州地区

全国常任理事
研究副部長 南川 武
福岡県会長

第 33 回九州各県高等学校教頭・副校長研修会 福岡大会のご報告

10 月 8 日(木)・9 日(金)に福岡リーセントホテルで標記大会を開催し、九州地区の会員の 3 割を超す 230 名の方が参加されました。内容としては大きく次の 3 つを行いました。

(1) 講演

「人を活かす経営」と題して、博多のお土産の定番である明太子の製造老舗(株)ふくやの川原正孝社長から興味深いお話を聞くことができました。

終戦後に復員した父親が明太子を考案し、製法特許や商標登録を取らずに後続の同業者と競い合いながら博多の定番商品に育ててきた経緯や、博多の町全体の発展とともに歩む会社であ

りたいという強い思い、また、地域社会との結びつきを重視し、町内自治会、PTA、スポーツ指導等のボランティア活動に参加する社員に手当を支給して奨励していることや、資格（販売士、漢字検定、秘書検定、簿記、消費生活アドバイザー、社会保険労務士、…）の取得を奨励し、仕事に直接活かせないものであっても積極チャレンジする環境づくりに努めて自己成長を促していることなど、ユニークな経営理念や人材育成法は、参加者から多大な好評を博しました。

(2) 研究・実践発表

長崎県立諫早高校教頭の植松信行先生からは「長崎県における校内研修について～本県における校内研修の課題と本校における取組～」と題して、校内研修の活性化に向けた県の研修体系要綱に基づいた長崎県内の校内研修の状況と課題、勤務校の実践が報告されました。

沖縄県立普天間高校教頭の比嘉良一先生からは「真の文武両道を目指して～自主性と主体性を育成する波風を立てる取組～」と題して、勤務校の抱える課題、その解決に向けた具体的な取組、その成果について実践報告が行われました。

大分県立新佐伯豊南高校教頭の今西恒夫・金田浩嗣先生からは「学校をつくる～ある新設高校の取組～」と題して、統廃合に伴う新設校づくりについての実践報告が行われました。この取組は 8 月の全国大会でも発表されています。

福岡県立折尾高校教頭の谷川陽一先生からは「道徳教育の効果的指導～いじめ撲滅に向けて～」と題して、特にいじめ防止の観点で各学校で取り組んでいる道徳教育について、県内北九州地区の学校への調査をもとにした考察が報告されました。

(3) 各県実情報告

例年どおり管内 8 県から各県の施策や取組状況等について報告があり、質疑応答をして情報共有しました。

なお、(1)～(3)にくわえて、第 1 日目夜の教育懇談会では、9 名の来賓を含め 192 名の参加のもと、各県の状況等について情報交換を行い、親睦を深めることができました。

大会を何とか成功裡に終了できましたのは、企画運営に尽力してくださった実行委員会のメ

ンバー、参加態勢確立にお骨折りいただいた各县会長・役員の方々、そしてお忙しい中を参加してくださいました会員の皆様のおかげです。紙面を借りまして厚くお礼を申し上げます。

最後に、特に九州地区の会員の皆様に、今後の充実かつ安定した開催に向けて、今年度の取組を簡単にご報告いたします。

実行委員会を立ち上げて準備に着手してみると一部形骸化した大会の姿が見えてきました。企画運営を開催県に任せっきりのため、何年も前年度踏襲という形で開催されており、会員の研修ニーズや参加費の有効活用などについての検討が不足していることを痛感しました。

そこで主管県として今次大会ではまず経費の節減を図りました。具体的には、大会冊子及び大会集録の写真製版印刷とカラーページの削減、参加申込受付の業者委託廃止などに取り組みました。

もう一つは、九州地区役員会で会計収支の安定化と大会内容の充実について論議し、今後の改善を図りました。その結果、来年度(28 年度)の佐賀大会からは各県の負担金を会員数に応じて増額し、逆に参加申込者から徴収する参加費は減額することにしました。それにともない、大会後に発刊する大会集録は参加・不参加にかかわらず九州地区全会員に配布し、研修内容を広く共有することとしました。さらに、来年度以降に主管県と役員会でプログラムの見直しを進めるとの合意も得ております。特に上記(3)は毎年同じような報告となっているため、大きく見直さなければならないと考えます。参加者に「有意義だった」と感じてもらえるような内容にしていくことが何よりも重要です。

こうした取組が進められたのも各県会長・役員のご理解・ご協力の賜であり、心からのお礼を申し上げます。今後の九州大会が充実したものとなり、多くの会員に参加していただいて成果を上げることを祈念いたします。

(鹿児島県立甲南高等学校 教頭)

第3回全国理事研究協議会報告

事務局長 錦織 政晴

1 第3回全国理事研究協議会

平成 27 年度、第3回全国理事研究協議会は 11 月 30 日（月）に、アルカディア市ヶ谷にて開催いたしました。

全国から 98 名の理事が参加し、本年度事業中間報告、会計中間報告、監査報告を行った後、内閣官房教育再生実行会議担当室長・内閣審議官の浅田和伸氏による「教育再生実行会議の動向と教頭・副校長への期待」と題した講話をいただき拝聴いたしました。

その後、北海道大会報告、来年度事業計画案、東京大会の準備状況などについて意見交換と協議を行っていただきました。

2 議事

①平成 27 年度事業中間報告、会計中間報告、監査報告、平成 28 年度年間行事計画および事業計画など

②北海道大会報告ならびに決算報告、東京大会の準備状況報告など

③特別調査報告

平成 27 年度の九州地区（沖縄県）より「学習指導要領の完全実施に伴う取り組みの現状につ

いて」

④地区研究協議会報告

各地区から地区研究協議会の概要について報告がありました。

3 講話

6 月 15 日の第1回全国理事研究協議会での浅野敦行内閣官房教育再生実行会議担当室・内閣参事官による「教育再生実行会議の動向について」に続き、教育再生会議の最新情報の講話をいただきました。

4 理事情報交換会

毎回、全国理事研究協議会の後には、理事情報交換会を開催し、各地区・県市の教育課題や教育改革の進捗状況について、様々な情報が交換されております。1 時間半という限られた時間ですが、教頭・副校長の職務範囲の広さと新たな課題出現の現状が改めて認識される機会となっております。

5 その他

会費の納入と各都道府県市研究論文等掲載誌の事務局への送付の確認をお願いします。



本部役員と北海道、東北地区の理事



関東、東京、北信越地区の理事



東海、近畿、中国（岡山、島根）地区の理事



中国（広島、山口）、四国、九州地区の理事

栃木県立学校教頭会 60 周年 記念式典

平成 27 年 10 月 9 日、栃木県総合教育センターにて、栃木県立学校教頭会 60 周年記念式典及び記念講演会が行われた。

栃木県教育委員会事務局主催の県立学校教頭事務連絡会の後、記念行事となった。開会行事の次第は、開式の辞、会長挨拶、来賓挨拶（栃木県教育委員会事務局学校教育課長宇梶宏美氏、栃木県高等学校校長会長上岡利夫氏、全国高等学校教頭・副校長会顧問・事務局長錦織政晴氏）、来賓紹介、閉会の辞であった。来賓としては、祝辞をいただいた 3 名の方々、栃木県教育委員会事務局学校教育課新井聰副主幹、平成 22・23・26 年度会長の糸川高徳氏、平成 24・25 年度会長の桑島礼二氏をお迎えした。

記念講演会では、内閣官房教育再生実行会議担当室参事官補佐後藤教至様を招きし、「現政権における教育再生の取り組みについて」のご講演いただいた。少子化の克服、格差の改善（校正・公平な社会の実現）、経済成長・雇用の確保の 3 つを解決し、「一人一人の豊かな人生」と「成長し続け安心して暮らせる社会」を実現していくことにより、豊かな国を築き上げられ、今こそが向かい合うときである。「人作りは国作り」のもと、我が国が抱える少子高齢化や教育格差、景気回復や世界情勢に至るまでの課題を解決するには、「教育」がすべての根幹となっていること、そのために教育実行再生会議では、机上の空論で済ますことなく、財源を含め教育そのものの根本的な変革が実行されていることを、わかりやすく丁寧にご説明いただいた。



記念講演会では、内閣官房教育再生実行会議担当室参事官補佐後藤教至様を招きし、「現政権における教育再生の取り組みについて」のご講演いただいた。少子化の克服、格差の改善（校正・公平な社会の実現）、経済成長・雇用の確保の 3 つを解決し、「一人一人の豊かな人生」と「成長し続け安心して暮らせる社会」を実現していくことにより、豊かな国を築き上げられ、今こそが向かい合うときである。「人作りは国作り」のもと、我が国が抱える少子高齢化や教育格差、景気回復や世界情勢に至るまでの課題を解決するには、「教育」がすべての根幹となっていること、そのためには教育実行再生会議では、机上の空論で済ますことなく、財源を含め教育そのものの根本的な変革が実行されていることを、わかりやすく丁寧にご説明いただいた。

第一次提言から第八次提言、さらに直前に発表

された平成 27 年 10 月以降の教育再生実行会議および提言フォローアップ会合（仮称）、今後検討されるであろう新たな課題にまで言及いただき、正に最前線でご活躍される後藤先生のお話の中に、現安倍政権の教育に賭ける意気込みが伝わり、教頭として新たな気持ちで取り組んでいくことを肝に銘じた次第である。10 月 7 日に内閣改造が行われた直後の本講演は後藤先生にとって多忙を極めた時期であったと思われる。多大なる感謝を申し上げたい。

以下、60 周年式典での栃木県立学校教頭会会長渡沼則昭教頭の挨拶文を掲載する。

栃木県立学校 教頭会 創立 60 周年記念式典開会行事挨拶

始めに、ちょうど 1 ヶ月前の 9 月 9 日、栃木県を含む北関東・東北の豪雨、数十年に一度の洪水や河川の氾濫が起こり、特別警報のもと、本県にも甚大な被害がもたらされました。被災された方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げるとともに、1 日も早い復興を祈念しているところであります。

さて、本日ここに栃木県立学校教頭会創立 60 周年記念式典が挙行されますことを、皆様方と共に、関係機関に対し、感謝したいと思います。併せて、本式典を挙行するにあたり、公務ご多忙の中ご臨席を賜りました、栃木県教育委員会事務局学校教育課長宇梶宏美様、栃木県高等学校校長会長上岡利夫様、全国高等学校教頭・副校長会事務局長錦織政晴様を始め、ご来賓の方々には深く感謝申し上げます。式典後の講演会におきましては内閣官房教育再生実行会議担当室参事官補佐後藤教至様をお招きし、現政権における教育再生の取り組みについて、ご講演いただくことになっております。

本教頭会は昭和 31 年に栃木県高等学校教頭会として設立され、その後現在の特別支援学校を加えて栃木県立学校教頭会と名称を改めました。現在、全県立学校 75 校、105 名で構成されております。全日制、定時制通信制、特別支援学校が一体となって会を構成し、会員全員が管理運営部門、高校教育部門、生徒指導部門、

特別支援教育部門のいずれかに属して調査・研究を行い、その成果を研究紀要としてまとめ、全国大会や関東大会で発表も行っています。また、8 地区に分かれた支部会、校種別部会（男子校、女子校、共学校など）でもそれぞれ研修会を行い、研鑽を重ねるとともに、情報交換を行う機会としています。

この夏休み中に周年誌作成のために全国教頭・副校長会で作成した冊子や栃木県教頭会作成の研究紀要に目を通しました。その中で、歴代役員のお名前の中に私が高校時代お世話になった恩師の先生、教員になってからお世話になった先輩の先生や教頭先生、校長先生のお名前を拝見し、大変懐かしく感じさせていただいたとともに、それらの先生方が学校内だけでなく、本教頭会でもご活躍・ご尽力されていた様子を拝察した次第です。

現在、少子高齢化、先の見えない経済状況、加えて異常気象とは言えなくなっている豪雨による洪水や竜巻などの気象の急変、その他子どもたちを取り巻く社会環境は厳しい状況にあります。グローバル化や情報化についても、負の側面が表面化してきています。また、各学校の特色作りやいじめへの対応、主権者教育、アクティブラーニング等への取り組み、高大接続改革の一環である学力評価のための新たなテストに対応した教育課程編成など高校教育を取り巻く課題は山積しています。

このような状況の中で、学校運営方針の具現化を果たすべく、常に校長の補佐役・調整役として学校運営に携わり、その中で最良の組織マネジメントを構築し、かつ次の世代を担う教職員の育成と保護者や地域・関係機関との連携に努める立場にある教頭職の責任はますます重くなっています。

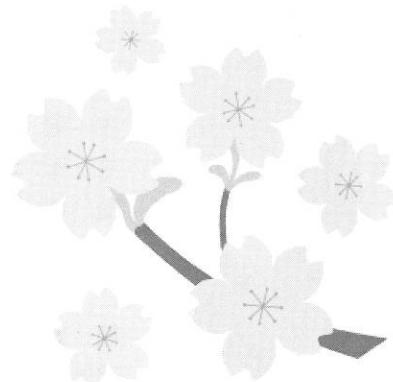
本教頭会では、教頭一人ひとりの業務をバックアップし、学校運営の効率化を図るため、教頭同士の横のつながりを重視し、ネットワークの構築、連携を密にするための体制作りを目指しております。日常の業務は勿論のこと、県内の各種研修会、全国大会や関東大会での研修を生かして、各学校で工夫し、様々な取り組みを行うとともに、校種を超えて他校と情報交換

を行うことによりさらに研鑽を重ねているところであります。

「人づくりは国づくり」です。本県の全ての教頭がこのことを肝に銘じ、次世代を担う生徒の育成のために、尽力する覚悟で取り組んでまいりますので、今後とも栃木県立学校教頭会へのより一層のご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、ご参会の皆様方の今後の一層のご活躍を祈念いたしまして、会長としてのあいさつといたします。

本日はありがとうございます。よろしくお願いします。



事務局だより

事務局長 錦織政晴

- この会報の発行に際してご多用の中を原稿をお寄せいただいた先生方にお礼を申し上げます。今年も瀧澤会長は玉井顧問と事務局とで分担し全国の地区の研究協議会に参加をし、地区の先生方と交流を深めることができました。今後も可能な限り継続できればと思っております。
- 今年は 6 月の第 1 回理事会の際には、内閣官房教育再生実行会議担当室・内閣参事官浅野敦行先生から、7 月の第 2 回理事会では田北社会保険労務士事務所長田北百樹子氏から、11 月の第 3 回の時は内閣官房教育再生実行会議担当室長・内閣審議官浅田和伸先生からのご講話・ご講演をいただきました。これからもこのような企画ができるだけとり入れていく方針です。

※これらの講話・講演は調査研究集第 39 号に掲載予定。

①平成 28 年度行事日程

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 5/6 (金) | 全国監査・役員会 東京 (事務局) |
| 5/27 (金) | 全国総務部会① 東京 |
| 6/27 (月) | 全国理事会①・地区協議会
東京 (アルカディア市ヶ谷) |
| 7/8 (金) | 全国総務部会② 東京 |
| 8/3 (水) | 研究部会・全国理事会② 東京 |
| 8/4 (木) | 全国大会 第 1 日 // |
| 8/5 (金) | 全国大会 第 2 日 // |

- 10/7 (金) 全国中間監査・役員会 東京 (事務局)
 10/28 (金) 全国総務部会③ 東京
 11/28 (月) 全国理事会③ 東京 (アルカディア市ヶ谷)

②全国大会について

- ・平成 28 年度 東京地区

主 管	東京都公立高等学校副校長協会
場 所	東京都千代田区
期 日	8 月 3 (水) ~ 5 日 (金)
- ・平成 29 年度 中国地区

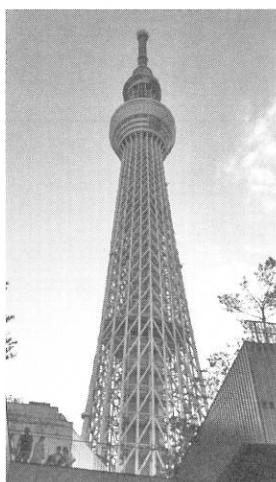
主 管	岡山県高等学校教頭・副校長会
場 所	岡山県倉敷市
期 日	7 月 26 (水) ~ 28 日 (金)

③刊行物等

月刊高校教育 (学事出版) に毎月「教頭・副校長会だより」と「教頭日誌」(教頭のホンネ) を掲載しております。ご一読賜われば幸いです。

会 報 第 93 号

発行日 平成 28 年 1 月 30 日
 発行者 全国高等学校教頭・副校長会
 (非売品)
 編集人 錦織政晴 発行人 瀧澤隆司
 〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28
 ナーベルお茶の水 2 階
 電 話 03-5840-6104
 FAX 03-5840-6108
 E-mail:info@zenko-kyoto.jp
 印刷所 株式会社リヨーワ印刷
 電 話 03-3378-4180



第55回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会

- 1 目 的 全国高等学校教頭・副校長の連携を図るとともに、高等学校教育の諸課題について研究協議を行い、時代の進展に即応する教頭・副校長としての資質の向上と高等学校教育の充実を図る。
- 2 主 催 全国高等学校教頭・副校長会
- 3 主 管 東京都公立高等学校副校長協会(主管 東京都)
- 4 後 援 文部科学省
東京都教育委員会
全国高等学校長協会 東京都公立高等学校長協会 等申請予定
- 5 期 日 平成28年8月3日(水) ~ 8月5日(金)
- 6 開催地 東京都千代田区 砂防会館別館ほか(予定)